



花の会ニュース

2025年4月号

no.204

編集人/ 社会福祉法人 花の会 広報委員会 連絡先/ 〒569-1042 高槻市南平台3-29-9

TEL 072-692-2859 FAX 072-693-3603

★WEB <https://hananokai.info/> ★E-mail hana-net@minos.ocn.ne.jp

発行人

2000年12月12日第三種郵便物承認

関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町2-2

東興ビル4階

毎月(1-2-3-4-5-6-7-8の日)発行

定価100円

第57回

花の会バザー

のお知らせ

日時: 2025年5月18日(日) 9:30~14:00

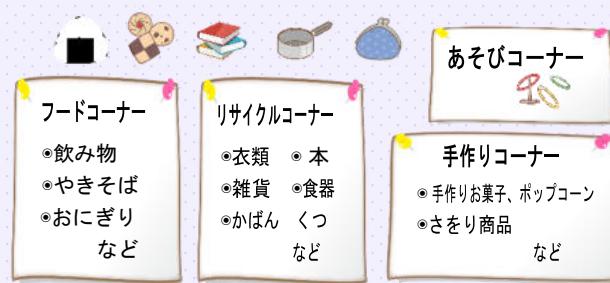
場所: 共働舎花の会敷地内、ほか

アクセス: 市営バス「南平台三丁目西」バス停すぐ

※ お車でのご来場はご遠慮ください。

お問い合わせは、第2共働舎花の会 (TEL 072-697-7033) まで。

おたのしみに!!



第42回

花の会総会・交流会

のお知らせ

日時: 2025年6月14日(土)

10:00 ~ 14:30

場所: 高槻現代劇場

3F レセプションルーム

主催: 社会福祉法人 花の会

前半 総会 (10:00~11:45)

議案

- 職員表彰式
- 法人事業報告
- 「花の会後援会」総会

後半 交流会 (12:00~14:30)



先日、高槻の退職教員の方から、2004年から2017年に第三者委員、2017年から2023年まで運営協議会委員を担つていただいた吉岡和美さんが昨年12月にお亡くなりになつたことを聞かされた。吉岡さんは、現職の教員時代、メンバーが販売に行くと、いつもにこやかに迎えていただいたこと、第三者委員として事業所を周り、メンバー・ワーカーの声を聞いていただいたこと、想い出されることが一杯です。ご冥福をお祈り申し上げます。

吉岡さんが教員をされていた時代の教員の皆さんのが思ひ浮かびます。そんな折、大阪・15教職員組合連絡会編の『みんな一緒に学校へ行くんや』(1980年、現代書館)を読み直す機会があつた。当時の八中について阿部靖子さんが書かれているが、あとがきにかえての文を教組委員長の奥村哲雄さんが書かれた文に惹かれた。正面から実直に書かれた後書きは、故梅田和子さんとの出会いに始まり、養護学校義務化反対闘争と高槻での市立養護学校建設運動のパラドックス(背理)。「養護学校ではなく、校区の学校で」という運動の基調は、組合運動そのものの転換であり、要求してきた市に対しても、運動の側の責任という点からも、厳しいものであります。1981年国際障害者年の10年前の時代、障害児教育の現場は、経験したことのない課題に向けて悪戦苦闘していました。

1982年「花の会賛助会」の堀田和喜さんが書かれた呼びかけ文も、感動を呼び起す文章で、永く花の会の説明で引用されたことが、想起される。

子ども情報研究センター「はらうつけ」412号(2025年3月)は「インクル

シブ教育とは?」の特集を組んだ。知的障害者を普通高校へ北河内連

絡会の松森俊尚さんが『就学年齢に達した子どもいる全ての家庭に

「地域の学校の就学通知」を』を寄せてている。その中で『ある若い母親

が:自分が小中学校時代には支援学級が当たり前にあつたので、わ

が子が障害を持つた時に、支援学級への入級を言われると「普通に」受け入れてしまつた。悔しいと、涙ながらに語られる姿が印象的でした。

そんな家族の下に地元の小学校の名前が書かれた就学通知が届いた

らどうでしょう。「私たちの学校はあなたが入学してくることを待つて

います。いつしょに学び、学校生活を送りましょ」とのアナウンスを届けるに違いありません。』と呼びかけが綴られています。現在、府下

43市町村のうち、12市町が、全家庭に配布されて

いること。その中に、高槻は含まれていません。

(やまだのかかし)

就学通知

イケナガさん

スポーツで自立のお手伝いがしたい！

イケナガさんのプロフィール

- ◆ 中学3年生から高校3年間、競泳選手育成コースでトレーニング。
- ◆ 短大卒業後はフリーアルバイトで、地方公務員の受験を目指していた。
- ◆ 2009年に障害者手帳取得。
- ◆ 18~22歳、マスターズクラス中級で水泳大会出場。スイミングクラブで短期コーチ指導の経験。
- MINORIクラブ、K+RunningClub(京都光華ランニングクラブ京都陸協登録クラブ)、2018年ごろからRUNCONNECTION所属。



2015年 大阪マラソン フルマラソンゴール直後

今回は、高槻就ポツ(高槻市障がい者就業・生活支援センター)に登録されている、イケナガさんにお話を聞きました。

Q 今、就労中ですが、どのようなお仕事をされていますか？

イケナガ：某会社の管理課の事務の仕事をしています。

Q 今のお仕事に応募しようと思ったのはどうしてですか？

イケナガ：業務内容が自分にできる仕事なのと、勤務時間が希望時間と同じだったから。

Q 今の職場で良いところは何ですか？

イケナガ：休みを取りたい時に言いやすいところです。

Q 今の職場でしんどいと思うところは？

イケナガ：人がしょっちゅう入れ替わること。

Q 今までずっと働いてこられましたが、なぜ働くと思ったのですか？

イケナガ：働いてお給料をもらいたいことと、実家が自営業だったので、社会保障が欲しかったからです。

Q 今まで働いて良かったことは何ですか？

イケナガ：お給料が入って、そのお金で姪っ子や甥っ子にプレゼントと自分の趣味代にしたりすること。

Q スポーツをやり始めたきっかけは？

イケナガ：姉とかがスイミングスクール通っていて、家庭的に兄弟順に行くのがそうだったためもあります。小学校3年の時に同級生と一緒にスイミングクラブに通っていて、その子が選手コースにいて、自分も水泳がうまくなりたいと思って、5年生の頃に近所の大手スイミングスクールに転籍し、そこで練習と進級テストの際に上がれるよう、泳ぎを覚えました。周りの子より、覚えるのが遅かったと思います。小、中学生の頃は学校より行くのが楽しみでした。

Q 陸上を始めたきっかけは？

イケナガ：小学生高学年で長距離が学年で上位だったので、運動会では長距離代表で選ばれたりもあったと記憶しています。(障害者)手帳を取る前は、大手スポーツメーカーの店舗で働いていて、水泳だけやっていましたが、手帳をとって手をつなぐ育成会のスポーツフェスタに800メートル走で出場し、パラ陸上連盟の標準記録に達したため、挑戦できると思いました。そこで連盟の方に連絡し、北摂で障害者の陸上クラブを紹介いただきました。

Q それから試合に出るようになったんですね。

イケナガ：2011年から日本ID(知的障がい)選手権に出場し、ジャパンパラリンピックに出るようになつて、京都のMINORIというクラブに所属して、京都

光華女子大学付属中高等学校のグランドで練習に励みました。1000m、800m、600mの練習や体つくり道具使用もあり、そこから長距離に挑戦するようになりました。

Q 実際にマラソンに
出場したのは?

イケナガ: 2011年度に日本知的障がい者陸上連盟で800mに出場して、大阪ID記録会の1500mにて標準記録を切ったのでジャパンパラ陸上にも出場しました。2012年度から日本知的陸上競技一本に専念し、1500m、5000mに出場しました。国際グローバル知的国際連盟パラリンピック組織下部のVirtusグローバルゲームズの3000mで強化指定選手の手前までいきました。

その後スペシャルオリンピックス日本大会の選手選考で日本代表になりました。2014年4月から2019年までスペシャルオリンピックスに登録し、その時勤めていた会社に許可をもらい、春から4回合宿に参加しました。2015年の福岡大会の成績が良かったので推薦で7月末から2週間、アメリカサンゼルスのワールドゲームズに1500mと5000mに出場して金メダル銀メダルを獲得しました。

その後もフルマラソン、ハーフマラソンを数多く出場しハーフでは1時間59分台の記録で日本IDハーフ記録樹立しました。

2016年はスキーでスペシャルオリンピックス新潟にアルペン大回転で2位になりました。2017年と2018年に大阪府障害者スポーツ大会選考で二年連続大阪府代表長距離選手に選出されメダルを獲得しました。



ジャパンパラ陸上 &
日本 ID選手権のメダル



2025年 東京マラソン



2015年 スペシャルオリンピックス
夏季世界大会 in LA

Q イケナガさんのこれから夢はどんなことですか?

イケナガ: 耳下腺腫瘍の手術をして、ハーフマラソンのタイムが悪くなり、トラック競技も少し減らしていました。そして新型コロナの時期くらいからスポーツ事業を始めたい気持ちが高まり、心の中にモヤモヤが出て人生計画を5年節目ごとにまとめています。年齢も40代の間に活動していこうと思いました。今年中に調べたところをいろいろ見学して、小さい規模でまずは行動して設立したいと計画しています。

18歳以上の知的障害やダウン症、グレーゾーンの人達が家から外に出て体を動かすことができる環境を作りたいです。

なかなか遠くまで出られない人には、その人の家の近所の公園など広い場所に出向いて、指導することも考えています。スポーツに興味を持ってもらって、興味があればゆくゆくは競技出場をめざすようになってもらい、親から自立できるようになることを手伝いたいと思います。

Q 最近も走っていますよね。

イケナガ: 現役の選手時代は週4回練習をしていましたが、今は、週2~3回練習で走っています。最近では3月2日の東京マラソンの知的障害部門で 10.7 kmに3年連続で出場しました。

Q これからも走り続けますか?

イケナガ: 体力が続く限りランニングします。陸上トラック中心の時は週4トレ筋トレでしたが、現在は週2~3回練習をこなしています。

障害者テニススクールも年に数回をもう少し参加して、バトミントンで体を動かします。

編集後記

本当にたくさんのメダルを獲得され、輝かしい成績を残されていますし、ご自身の経験を他の方のために役立てたいと熱心に計画を立てておられるので、これからのご活躍が楽しみです。



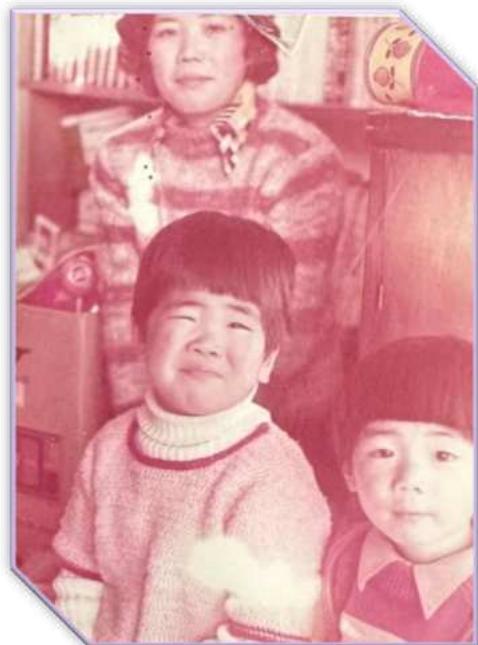
(取材:高槻市障がい者就業・生活支援センター
宮崎 佳子)

はやし ただし ま す こ
林 正さん マス子さん

～親の想い～

娘 佐知子さんのプロフィール

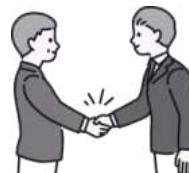
- 2001年～ 花の会の「すずらん」へ分譲という形で花の会に関わることになりました。
- 2008年～ 「第2共働舎花の会」利用開始。
- 2015年～ グループホーム「かえで」利用開始。
- 2022年～ 「第2共働舎花の会」から、「はなみずき」へ異動。



林 佐知子さん（手前左）

今回のご家族インタビューは、はなみずきのメンバー、林 佐知子さんのご両親です。

まだ制度の整っていない時代にご自身で作業所を立ち上げ、地域での厳しい状況の中でも活動をされてきました。現在もご近所の方やサークル活動などのお知り合いの方から、バザー用品の提供やパンの購入などのご協力を広めることで、花の会の活動への支援を精力的に行われています。



Q 小さい頃の佐知子さんはどんなお子さんでしたか？

母：1970年に京都で生まれ、お父さんが働いていた会社の社宅がある高槻市へ引っ越しました。小さい時は大人しく、一人でおもちゃを使って遊んでいましたね。

幼少期はうの花養護幼稚園へ通っていましたが、地域の幼稚園へ入れたいという想いで、高槻幼稚園に1年通いましたね。その後、社宅がなくなるので引っ越しすることになったのですが、高槻市は福祉がいいと聞いていたので、高槻市で家を探して購入しました。地域の学校へ通わせたいという想いは変わらず、北大冠小学校へ通い、通学は近くに住む友達が毎日、送り迎えをしてくれて、嬉しく想いました。また、その時の担当してくれていた先生がとても良くしてくれて、佐知子は楽しんで通っていました。その時の先生達とは今でもつきあいがあり、先日もお食事をしました。

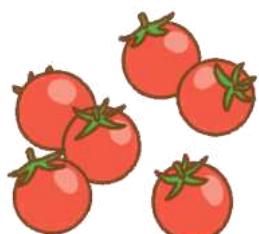
中学校も地域の学校へ通わせたかったんですが、その当時の六中は荒れており、たばこのにおいやガラスのない窓が多くあったりしたので、そこへ佐知子を通わせるのは…と想い、断念したんです。

Q とまと共働作業所を立ち上げるきっかけをお尋ねします。

母：中学校から高槻養護学校（現：府立高槻支援学校）へ通い、高等部2年の時に行政から、「高校卒業後行くところがない」と言われたので、親が集まり、とまと共働作業所の立ち上げ準備をしました。そして1989年7人の親でとまと共働作業所を立ち上げました。その当時は障害者への偏見も強くあり、場所を探すのにも苦労をしました。萩之庄でいい家主の方に出会い、場所を借り、内職なども紹介していただき、大変よくしてもらいました。給食も自分達で作っていました。

Q とまと共働作業所の由来はなんですか？

母：私が赤い実がいいなと想い、「とまと」だと上から読んでも下から読んでも同じなので、佐知子達も間違えないかと思って「とまと」にしました。



Q 花の会で活動するようになった経過を教えていただけますか？

母：私が作業所連絡会の副代表をしている時の代

表が山田さん（現：花の会理事長）でいろいろなアドバイスをもらって日々を過ごしていました。13年間のうち、6年はお借りしていた所でやっていましたが、家主さんが引っ越しすることになり、新たな活動場所を探さないといけなくなり、自分達の家を一旦壊して、作業所兼家に建て替えて、事業の継続をしました。ただ、佐知子は、家と作業所が同じ場所になるので、本当にこれでいいのかなとずっと葛藤しながらやってきました。その後、葛藤しながら作業所を続けてきましたが、このまま無認可を続けていくことが難しいと思い、2001年に花の会にお世話になりました。13年間続けてきたとまと作業所を改め、共働舎花の会の分譲「すずらん」として新たにスタートしました。「すずらん」ではクッキーなどを作り、楽しんで通所していました。2008年に第2共働舎花の会ができた時に異動してきました。

その後は2015年にグループホーム「かえで」に入居しました。ただ、両親としては、グループホームに入居するのは寂しい気持ちもあり、今も少し複雑な想いもありますが、佐知子は「かえでいく。」と、グループホームに行くことを楽しみにしているので、入居してみてよかったですのかなと感じています。グループホームに入居して今年で10年を迎えるので、あっという間ですね。2022年には、「はなみずき」へ異動しました。第2共働舎花の会が長かったので、

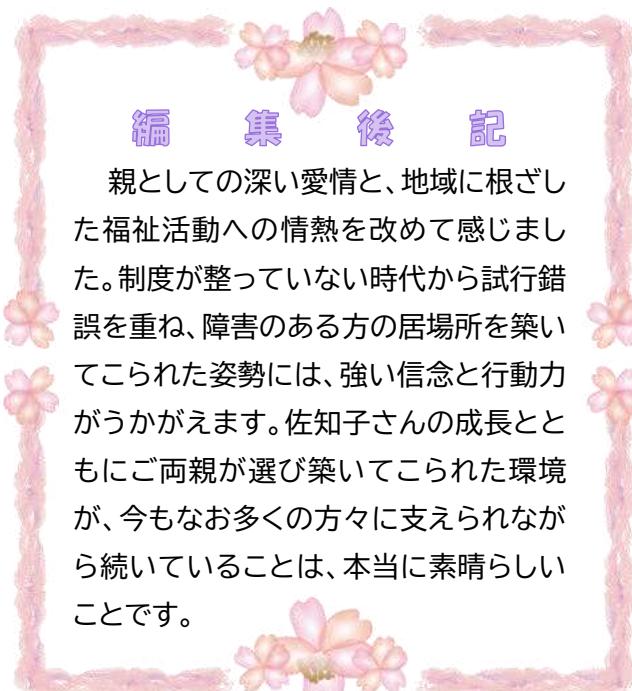


異動して1年ぐらいは慣れず、佐知子自身が不安がっていましたが、今は慣れてきて、毎日帰る前にパンを買うのを楽しみにしています。

Q 今後の花の会に望むことはありますか？

父： 花の会の親同士でも交流が少なくなってきた。

ぜひ、花の会の現場を知ってもらい、一緒に協力して花の会を盛り上げていきたい。バザー用品の提供や自主製品の購入など、花の会のメンバーのために、職員さんからも、家族に協力できることがないか、どんどん声をあげてもらって、交流していただけたらと思う。



編集後記

親としての深い愛情と、地域に根ざした福祉活動への情熱を改めて感じました。制度が整っていない時代から試行錯誤を重ね、障害のある方の居場所を築いてこられた姿勢には、強い信念と行動力がうかがえます。佐知子さんの成長とともにご両親が選び築いてこられた環境が、今もなお多くの方々に支えられながら続いていることは、本当に素晴らしいことです。

（取材：はなみずき 菊地 宏周）



なかがわ あけみ 中川 朱美さん

職員の声・支援への思い

中川 朱美さんのプロフィール

1989年入職。

無認可の作業所時代から花の会のワーカーとして勤務され、生活介護からグループホーム、ショートステイ、児童など、さまざまな事業に関わってこられました。

現在は、児童発達支援・放課後等デイサービス「あじさいクラブ」の管理者としてご活躍されています。

好きなことは、保存食づくりと図書館へ行くことと畑仕事。

ママレードやりんごジャム、お漬物からポン酢、さらに残った果物の種などで化粧水までご自身で作ってしまうそうです。



今回は中川朱美さんに、花の会黎明期のことから児童部門のことなど、いろいろとお話をいただきました。

Q 入職の経緯を教えてください。

中川：初代理事長が濱田信雄さんっていう方なんですけど、濱田さんが富田の方で保育所をやられていて、もともとはそこの保育士としてお仕事をさせてもらったんです。最初の6～7年くらいはその保育所でお世話になっていたんですけど、濱田さんが花の会の立ち上げの中心になっておられて、「そこも人がいないから、やってくれへんかな?」って言われて。

私は保育やったらまだ経験もあるけど、障害のある人の支援なんて本当にやったことがなかったから、どうしたらいいか分からんし、周りの方にも迷惑かけると思うし、難しいかな…って思って断つたんです。

でも、濱田さんっていうのは、とっても心が広い方というか、なんでもOKな方でね。私が「無理やと思います!」って言っても、「うんうん」って聞き流して、「まあ、ほなやってみよか」っていうタイプの方で。でも、いい加減じゃないんです。「責任は自分が取るから、なんでもやってみい」っていう方。すごく信頼がおける方で、濱田さんがそうおっしゃ



るなら私も、「まあ、じゃあやってみますか…」ってなって。それが最初でしたね。

Q そのあと児童部門ができたんですか?

中川：いえいえ。1999年くらいかな、無認可から、だんだん法人が大きくなってきたくらいの時に、ショートステイの立ち上げをやらせてもらったんです。

これも、「中川さん、ショートステイやって」って言われ…、でもショートステイっていう言葉も私は知らないし。「そんなん、できないと思います」って言ったんやけど、そのままなんとなくやることになつて…。ショートステイは3歳くらいのお子さんから受け入れしていたから、花の会が小さいお子さんの支援を始めたのはその辺が最初かな。

児童部門は2013年に始まりました。山田さんって、必要に迫られたらどんどん事業を増やしていく感じなんですね。障害のある方にとって必要な事業があるなら、人がいなくても、とりあえず手をあげる。それから考える。まずは準備を整えて…とかじゃないんです。とりあえず始めてから整えていかれる方。

当時花の会は、16歳以上からじゃないと利用できなかつたんだけど、「小さい時の環境ってやっぱり大切だよね」、「やっぱり子どもも対象に考えないとあかんよね」っていう話をよくしていて…。児童

部門はその話から始まつたんです。

ちなみにその時は、私ももう年も年なんで、仕事は続けられないと思っていたんです。でも、ここでもやっぱり「児童できる人がいない」ってなつて…。「中川さん、保育士やってたんやからできるんぢやう?」っていう、かる~い感じで言われて。山田さんも濱田さんと似てるところがあるから…。

もともと私は濱田さんが大好きで、花の会が大好きで、自分が何かの役に立てるなら、っていう気持ちがあったから、やることが決まりましたね。

もうね、こういうことの繰り返しでした。でも、そうしていたら、なんとなく落ち着くところに落ち着くというか…。そういうことの積み重ねで、「決められた道ではないけど、一生懸命やってたらそのうちきれいに整っていくんだ」って、自然と思えるようになつたかな。

Q メンバーと関わる中で大切にしているのはどんなことですか?

中川: 人の中で生きる・社会の中で生きるっていうのは、最低限のルールがいると思っています。やっぱり何でもありではないから…、そういう守らなあかん基本的なルールだけはしっかりとお伝えして、あとは自由。自分の考えや気持ちをしっかりと伝えられるようになってほしいなって思つてます。

あじさい(クラブ)の子どもたちには、「人の話をまず聞いて、自分で一回考えてみて。」「考えたことを何でもいいからお話して。」ってよく言つてゐるんです。インプットとアウトプットの頭の流れは本当に大事。

中川としては、児童やから関わり方はこう、とか、日中としての関わり方はどう、とかが無いんです。どこでも一緒。その人と一緒にどこまで関わつていけるかっていうだけやから…。人として、メンバーにはそういう力を身につけてほしいと思って接しています。

Q 花の会の今後・児童の今後について聞かせてください。

中川: あじさい(クラブ)を利用されていた方で、高等部を出てから花の会の生活介護であつたり、就B(就労継続支援B型)に行つたりしている人が、今4人くらいいらっしゃるんです。ご本人やご家族が花の会を選んでくださつたっていうのは、「花の会つてこういうところなんや」って理解したうえで、信頼

して「ここがいいな」と思つてくださつたと思うんですね。



こんな風に、児童を利用していた方が大人になつてからも、社会や人にどんどんつながつていって、地域の中で自分らしく生きていつていただきたい。そのために花の会につながつてもらえたなら、すごく嬉しいです。

だからこそ、花の会の支援を知る最初のとっかかりが児童部門になると思うので、大切にいきたいですね。大切に、っていうのは、「なんでもその子の思い通りに」っていうことではなく、私たちの理念※である「共に」っていう部分をきちんと伝えて、その思いを持って関わつていくということ。そういう関わりをしていくことで、「花の会って楽しいよね。」「安心できるよね。」と思っていただいて、長くつながつていければいいなと思っています。

だから、あじさい(クラブ)の卒業生が花の会の事業所を使つてくれているっていうのは、児童立ち上げから10年過ぎて、「やつとつながつた!」っていう気持ちで…、本当に嬉しくてね。

最初そういう考えで始まつたものが、今ようやく形になってきているんです。

これも「最初は分からなかつたものが、一生懸命やってたら自然と形になつていく」のひとつかもしれませんね。

※ 花の会の理念

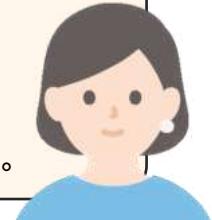
共に学び、共に働き、共に生きる

編集後記

中川朱美さんといえば児童、みたいなイメージがありましたら、どこにいても中川さんは中川さんでした。お話を聞く中で、揺らがない一本の芯のようなものを感じました。

「分からなくともなんでも必死でやってみる。そしたら、自然と形になる。」

私も大切にいきたい考えです。



(取材:田淵 彩子)



日中活動支援・地域生活支援 追悼寄稿

真鍋大樹さんを偲んで

第2共働舍花の会とグループホーム「ブルート」を利用されていた真鍋大樹さんが、1月30日にお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りいたします。



素敵な笑顔を、ありがとう。

真鍋さんが第2共働舍花の会へ入った頃、私は共働舍花の会に配属されていたと思います。その頃は送迎車で一緒になることが多く、私が「おはよう」と挨拶をすると、ニコッと笑って「おはよう」と返事をしてくれました。その笑顔がとても爽やかで元気をもらったことを覚えています。その後は同じ事業所になることはありませんでしたが、イベントなどで一緒になった際も笑顔で返事をしてくれました。



そして、2024年度から同じ第2共働舍花の会に異動になりました。その後も挨拶すると「おはよう」、「元気やな～」などと話す笑顔がとても素敵です。音楽をかけると陽気になる真鍋さん、周囲のワーカーやメンバーを持ち前の明るさや笑顔で明るくしてくれるムードメーカー的な存在でした。これからも私たちを見守ってくれていると思います。

(第2共働舍花の会 渡邊 朋幸)



グループホームでも笑顔たっぷりの真鍋さん

ブルートに入居して間もない頃、入力した文字を言葉としてしゃべる教材で楽しそうに遊ばっていました。「パクッ」と音がなるパネルを見つけ、それを押しては私の方を見て顔真似をする。それに対して顔真似で応えるというやり取りが楽しかった様子で、その時の笑顔がとても印象的です。「イヤー」の顔や、ウトウトしながら手を握る仕草など、愛嬌たっぷりの大樹さん。ホームを利用してくださったことで、私たちに学びや成長の機会をくださいました。大切にします。



真鍋さんのホームでの生活を振り返ってみて思うことは、世話人や訪問看護師ともすぐに打ち解けて、いつも明るく場が和んだり楽しい雰囲気につつまれ、人から愛される方だったなあと思います。

また、教育

番組や童謡の歌などがとても大好きでお気に入りの歌が流れると、いきいきと嬉しそうな笑顔で手振りをして歌われる真鍋さんに元気づけられたことを思い出します。天国に行っても楽しく歌っているのかな‥。心よりご冥福をお祈りいたします。



安らかな旅立ちでありますよう、お祈りいたします。

(フラワーホーム世話人 立岩 信亮)

(フラワーホーム世話人 仲田 勝則)



日中活動支援の報告 生活介護

3月29日

手話コーラス&ダンス発表会を開催しました

2025年3月29日(土)、アルプラザ高槻 アクトドームにて、手話コーラス&ダンス発表会を開催しました。2024年度もミュージカルフレンズさんにご指導いただき、花の会タイム(社会参加につながる余暇活動のひとつ)の活動として1年間、手話コーラスを練習してきました。また、手話コーラスだけではなく、メンバーの希望が多かったダンス3曲にも取り組み、とてもハードな練習となりました。しかしハードな分、休憩時間や隙間時間にたくさん練習したこと、み



んなの頑張りが発表会で披露できたと思います。第4共働花の会だけではなく、共働花の会や第2共働花の会のメンバーの歌とダンスの発表もあり、また、地域の児童さんも参加していただき、賑やかにそして楽しく過ごせた1日でした。場所的に全員集合写真が撮れなかったことが悔やまれますが、気持ちはひとつになっていたので良し！！

発表会にご来場いただき、本当にありがとうございました。今後も花の会を知ってもらえるよう、みんなの笑顔と元気パワーを届け、地域でのつながりの場を設けていきたいと思います。

(第4共働花の会
吉牟田 ゆき江)

地域生活支援の報告

はいびすかす

新職員を紹介します

皆さん初めまして。3月より花の会に入職し、サービス提供責任者としてサポートセンターはいびすかすに配属となりました、矢倉 誠一と申します。前職でも同じく、サービス提供責任者として約3年、ヘルパーとしては計7年ほど他市にて勤務しておりました。この度、縁あって花の会に入職することとなり、温かく入職を迎えてくれた地域生活部門の皆さんには感謝しています。

入職後は、管理者である三原さんに日々の業務などを少しずつ教えてもらっています。今は事務的な仕事を中心に勉強中ですが、ゆくゆくは私自身も直接メンバーの支援に入り、皆さんの生活が今より豊かなものになるよう、少しでもそのサポートができればと思っています。まだ慣れないことばかりですが、

焦らず自分のペースで日々の業務に慣れていき、メンバーやヘルパー職員との信頼関係を築いていければ嬉しく思います。そのためにはまずは、日常の業務で大きなミスをしないよう、一つひとつの仕事を着実にこなしていく、自分の自信に繋げていければと考えています。ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、職場のみんなの力を借りながら、また私自身も職場のみんなの力になれるよう努めてまいりますので、改めまして、これからよろしくお願ひいたします。



(サポートセンターはいびすかす 矢倉 誠一)



児童通所支援の報告

「第3回 児童部門作品展」を開催しました

2月4日～17日の間、JR高槻駅前ロータリーの地下にある「えきちかギャラリー」で児童部門の第3回作品展を開催いたしました。

今回は「子どもたちの発想」「早春」をテーマに、各事業所で大きな作品をみんなで作成して展示させていただき、場所柄人通りはあまり多くはないのですが、展示スペース一面に作品を飾ることで、遠くから見ても「なんだろう」と興味を持っていただけたのではないかと思っております。作品は12月から1月にかけて、子どもが協力して楽しみながら作っていて、「また作るの？」

といった感じでちょっと定番になりかけているようにも感じました。みんなで作ったものをいろいろな方に見てもらい、また3事業所のことを地域の方に知っていただく良い機会になっているようにも思います。

今後も機会があれば続けていければと考えております。

(あさがおクラブ 山口 昌亮)



～冬休み・春休みの活動報告～

冬休み期間は本当に寒さ厳しく寒い冬でしたが、そんな中でも子どもたちは学校がないので、朝から事業所を利用して夕方まで元気いっぱいに過ごしていました。活動内容もこの時期恒例の年越しそばを作ったり、大掃除や書初め、年明けには初詣と、季節を感じる内容となっていました。どんなに寒くても外で遊びたいと言う子どもたちには本当に驚かされました(笑)。

春休み期間は、調理実習のほか、季節柄お花見や



お出かけなどみんなでよく外出します。また卒業の時期でもあり、毎年数名の子どもたちが事業所を卒業されていきます。別れは本当に寂しく感じますが、成長を感じる場もありますので複雑な気持ちになってしまいます。

新たなスタートを切った皆様におかれましてはあじさいクラブ、あさがおクラブ、さくらクラブ職員一同ずっと応援しております。

(あさがおクラブ 山口 昌亮)



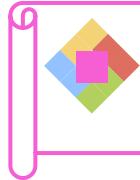
「事業所間連携加算」について

複数の通所支援事業所を利用されている方について、事業所同士が情報共有を行い、連携して支援に取り組む体制を整えるため、2024年度(高槻市においては実質的に2025年度)から「事業所間連携加算」という新たな制度が始まりました。この加算を活用するには、保護者による手続きが必要で、中心となる“コア連携事業所”の選定などが求められます。ご希望の方は、事業所または子育て総合支援セン

ターまでお問い合わせください。なお、加算を活用しない場合、手続きは不要です。

一人ひとりの生活や成長をより丁寧に支えるため、制度利用の有無に関わらず、必要に応じて関係機関と情報共有や連携を積極的に行い、地域全体での育ちを支える取り組みを考え、また支援の質を高めていきます。

(さくらクラブ 平田 昌史)



就労相談支援の報告

「障がい者みんなのつどい」に参加して

2月8日(土)、「第27回障がい者みんなのつどい」がゆうあいセンターで行われました。高槻市障害児者団体連絡協議会(高障連)と高槻市障がい者就業・生活支援センター(就ポツ)が共催で毎年開催しており、今年は99名の参加がありました。

つどいの開催までには、実行委員のメンバーが毎月集まり、ゲームや出し物の企画を考えました。参加者の皆さんのが楽しい時間を過ごせるようにアイディアを出し合い、準備を頑張りました。

つどい当日、朝から雪が降っており、「みんな、無事に会場に来てくれるかな?」とドキドキしながら開始時間を迎めました。そんな心配をよそに、続々と参加者が集まり、乾杯の挨拶でつどいをスタートすることができました。

出し物のコーナーでは、高槻サインオーケストラさ



んをお招きし、手話コーラスに挑戦しました。手話を使ったことがない参加者の方も、音楽に合わせて、手話歌を楽しむことができました。また、みんなでじゃんけんゲームを行い、見事勝ち残った10人が景品をゲットされました。皆さんの笑顔をみることができ、実

行委員としても嬉しく思いました。

体験談発表や参加者全員にマイクを回しての自己紹介では、今頑張っているお仕事の話や、就職に向けての目標などを聞くことができました。

和気あいあいとした雰囲気の中で、今年のつどいも大盛況に終わりました。このような会を毎年続けられるよう、今後も地域の皆様と協力していけたらと思います。

(高槻市障がい者就業・生活支援センター 橋口 正子)



フルツア

新職員を紹介します

2025年1月に入職しました、吉永明彦です。所属は就労支援センター フルツアです。前職は、仏壇・墓石・寺院仏具の販売店のマネージャーをしていました。定年を期に新しい仕事をしたいという欲求に駆られ、この業界に応募し、縁あってフルツアで働くことになりました。



趣味は神社をお参りし、御朱印を貰うことです。それ以外には、家で晩酌をしながらの野球観戦やゲーム、漫画、小説、そして犬の散歩をしています。

未経験のため、見ること聞くことすべて初めてで新鮮です。先輩方やメンバーの方に教えてもらいながら日々体験しています。皆さんの職場にも実習でお邪魔することがあるかもしれません、分からぬことだらけのため、ご迷惑をお掛けすることになると思います。よろしくお願ひいたします。



はやく体験が経験に変わることを念じて、日々頑張っていきたいと思います。

(就労支援センター フルツア 吉永 明彦)



法人の報告

処遇改善加算の制度変更と花の会の対応について

支援費報酬は3年に一度、国の制度改正により見直しが行われています。近年の改定傾向として、基本報酬を抑えつつ、各種加算や処遇改善加算を引き上げる調整が続いてきました。2024年度の報酬改定では、これまで3つに分かれていた「福祉・介護職員等処遇改善加算」が一本化され、新たな制度としてスタートしました。1年間の経過措置期間が設けられ、花の会ではこの4月から新制度へと移行しています。

事業所の報酬は、大きく以下の3つの柱で構成されています。

- ・基本報酬：メンバーが1日利用した際の基本的な報酬
- ・各種加算：人員体制の充実度、職員の資格、就労実績、工賃支給実績などに応じて加算される報酬
- ・処遇改善加算：職員の処遇改善を目的とした加算で、事業種別ごとに料率が設定されています

このうち、処遇改善加算については、得られた収入をすべて職員に還元する必要があります。配分先としては、給与や賞与、昇給の原資、法人が負担する社会保険料などが認められています。

また、新制度においては、一時金による支給ではなく、月々の給与に上乗せする「ベースアップ（=月額賃金改善要件）」が原則とされており、国からもその実施が求められています。

花の会では、以下のような配分ルールを定めました。

■処遇改善加算の収支計画■

項目	金額
処遇改善加算見込収入額	106,000,000円
総支出予定額	111,368,626円
(ベースアップ手当支給額)	65,496,600円
(一時金支給額)	32,693,718円

※なお、支出予定額が見込み収入を上回っているのは、法人が独自に上乗せして職員の処遇をさらに改善するためであり、不足分は法人の持ち出しにより補填する予定です。

■支給基準■

処遇改善対象事業所

ベースアップ手当基準額（月額）30,000円
(時給額) 179円
一時金基準額(年1回/2026年5月支給予定)
179,000円 (時給額)90円

処遇改善対象外事業所

ベースアップ手当基準額（月額）15,000円
一時金基準額(年1回/2026年5月支給予定)
89,850円

※一時金の支給時期については、加算対象となる2025年度(2025年4月～2026年3月)の実績を踏まえて支給額を確定する必要があります。そのため、年度末に実績を精査した上で、報酬が確定・入金される2026年5月に支給するスケジュールとしています。

■最後に■

新しい制度のもと、花の会では職員の処遇改善にこれまで以上に力を入れてまいります。引き続き、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

(業務執行理事 成瀬 修)



理事会・評議員会の報告

3月16日(日)に理事会・評議員会が開催され、2025年度の事業計画等が承認されました。また報告事項としては、補助金(ICT導入モデル事業)を活用して各事業所にインカム(トランシーバー)を整備したことや、行政からの運営指導と呼ばれる数年に1回の検査報告などを行いました。

次は5月に決算理事会、6月に定時評議員会を控えています。

2025年度は役員改選の年になるため、理事、

監事、評議員や法人運営協議会委員、第三者委員の選任を6月に予定しています。

理事会 議決事項

以下の事項について議決しました。

- | | |
|------------------------|-------------------|
| (1) 2025年度事業計画（案） | (6)～(8) グループホーム関係 |
| (2) 2025年度予算（案） | (9) 旅費規程変更 |
| (3) 2024年度第1次補正予算（案） | (10) 定時評議員会の開催 |
| (4) 管理者変更 | (11) 財産目録・定款の修正 |
| (5) 地域若者サポートステーション事業受託 | |

(業務執行理事 成瀬 修)

発行人
2000年12月12日第三種郵便物承認
関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町2-2
東興ビル4階
毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行
定価100円